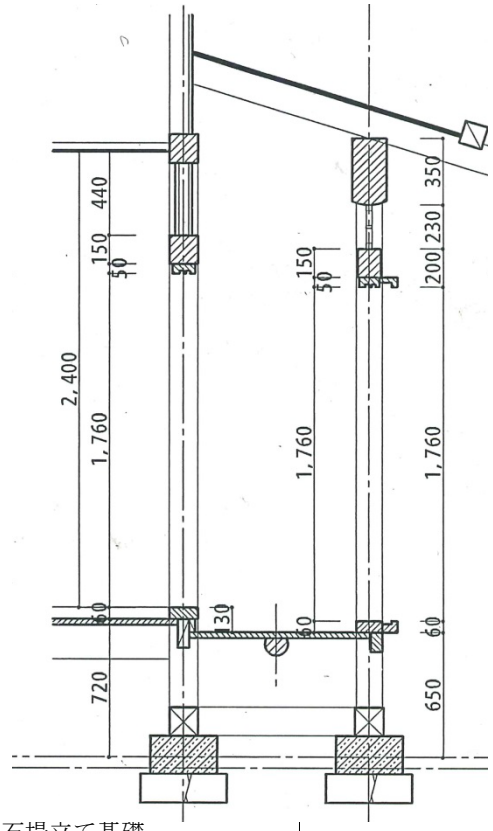
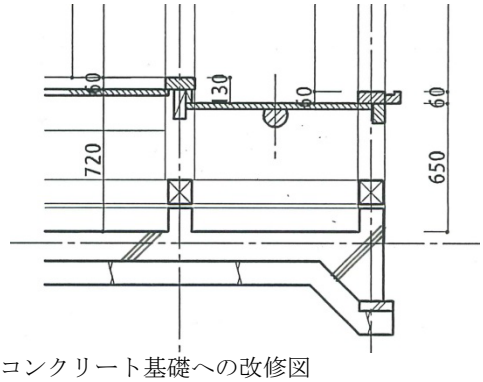
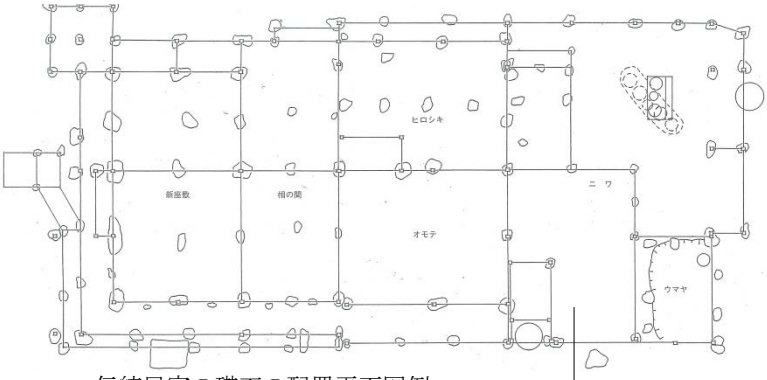


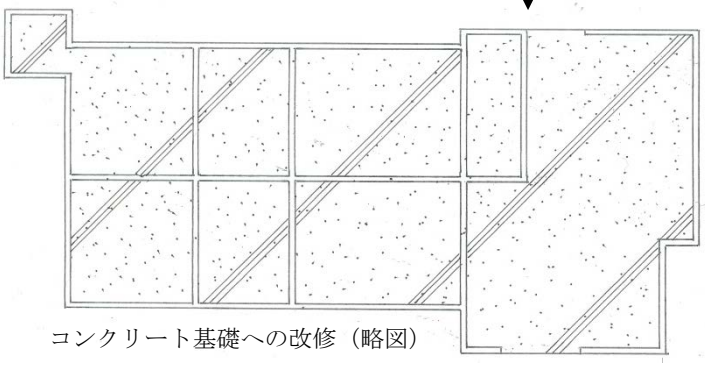

石場立て基礎



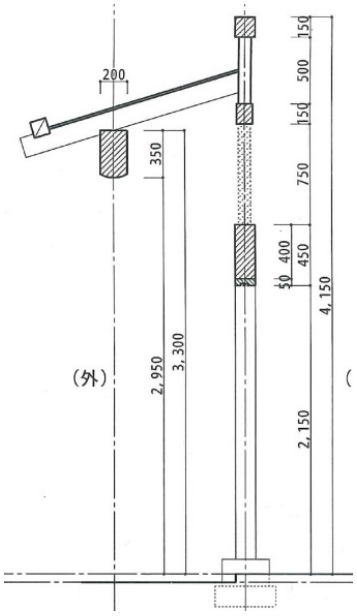

コンクリート基礎への改修図



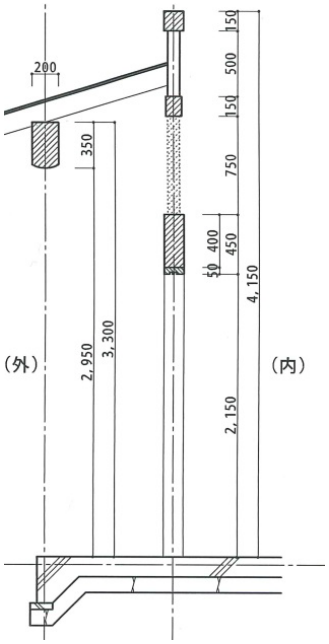

伝統民家の礎石の配置平面図例



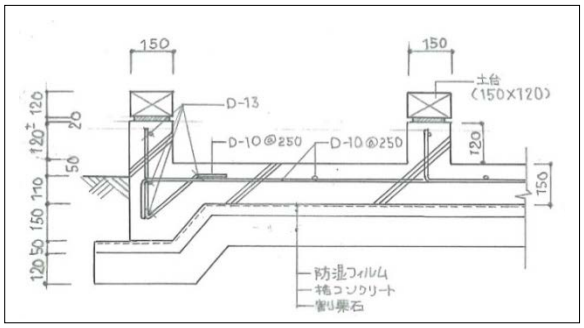
コンクリート基礎への改修（略図）




石場立て基礎




コンクリート基礎への改修図




●平角材の土台敷き

現代工法では柱寸は正角120×120㎜が使われているが、古民家の柱は座敷と土間境、上屋柱と下屋柱等部位により異なるが、4寸角（約135×135㎜）も多い。その場合は布基礎の立ち上がり幅は150㎜以上確保する。

●コンクリート基礎工法

石場立てを土台敷きに変える方式。この工法は連続したコンクリート布基礎工法（べた基礎）として、土台の上に柱を立てる現代の基礎工法である。条件により工事工程、コストなども石場立て補修とかなり異なり、コスト負担が高くなる。柱の土台へのホゾ差し、ジャッキアップなどで対処する必要がある。

土台とコンクリート基礎をボルトで緊結することにより、建物が土台を介して「剛」の構造になるように固定する工法である。この工法は、コンクリートの耐用年数に関係することになる。なおこの工法については法規を含め周知されているのでここでは省略する。

当出版物(PDFなどの電気的・磁気的ファイルを含む)は著作権を有しております。一部あるいは全てにおいて、改変、複製、転写等、著作権法により禁じられております。商業目的であるか否かを問わず、無断で再配布(直リンクを含む)することを禁止いたします。